

安芸郡遺族連合会

安芸郡遺族連合会概況

■沿革の概要

(1) 県遺族厚生連盟の創立総会に基づき、昭和二十七年五月当時、安芸郡二十二町村の戦没者遺族六、一〇五世帯の遺族としての地位確保の熱意に応え、安芸郡遺族連合会として結成を見た。会長には、当時の海田町長であった頼澤忠雄氏を推薦した。

(2) 発足直後においては、当時の会長以下役職員の苦労は、日々の奉仕に追われながらの業務であり並大抵のことではなかったと思われる。また、遺族会は結成されてはみたものの、各会員には未だ遺族等の心境も生活も落ちつきをみせていない時でもあったにもかかわらず、祖国復興には最大の協力を惜しまなかった当時を回顧すれば感慨深いものがある。

また、毎年盛大に実施されてきた郡内各町遺族会等による慰霊祭・追悼法要に、会長は郡を代表して参列し、併せて県本部による毎年の諸行事に参加しつつ、活動を通して援護の強化を進めている。

昭和五十五年には、終戦三十五周年創立三十周年を記念して、十一月十日音戸中央公民館で安芸郡遺族大会が盛大に実施され、また、終戦四十周年記念広島県戦没者追悼式が、六十年九月二十一日、広島市公会堂で実施された訳であるが、安芸郡遺族連合会として八十七名参加したと記されている。

その後の主だった動きとして、県本会遺族会館改装の趣意に基づき、会員から拠出を行ったことや、婦人部、青壮年部が県本会の指導等により結成され、研修会等積極的に参加会員相互の意志の疎通を図っていることなどがある。

(3) 現在、会員の高齢化は進み、減少の一途を辿っていることは否めないが、安芸郡九町により正会員六八〇名青壮年部会員六十五名を有し、婦人部、青年部各部長が研修諸活動の参加・指導等積極的事業の推進に鋭意取り組んでいる中、安芸郡遺族連合会として、遺族援護の拡充・改善に会員の福祉に力を入れながら全力をあげ組織の強化を図っている。

わが国は、平和文化国家として再出発している訳だが、その礎として散った人々は、悲惨な戦争犠牲者であった事に思いを致せば致すほど、我々は英霊を追悼し永久にこれを祭祀して平和への決意を強くせねばと思うのである。

そして、過去の教訓を踏まえながら援護全般にわたって会員の福祉の増進に全力を上げつつ、本会の組織の強化を図りたいと思っている。

■発足当時の役員

会長 頼澤 忠雄 婦人部長 行武 静子

■現 役 員

会 長 小間孝一郎

副 会 長 大吞憲太郎 吉川 三郎

婦人部長 玉島ミエコ

副 部 長 堂免 友枝 石渡ツルエ

青壮年部長 宮崎 伍

監 事 平野 松夫 万城 正登

安芸郡遺族会役員 (平成五年十一月調べ)

改選年月日	理事名	住 所	評議員氏名	住 所	備 考
昭和 24・12・1	野間 寿人 (59才)	安芸郡中野村	梶原 一貫 (48才)	安芸郡瀬野川村	名簿だけのようです
27	頼沢 忠雄	安芸郡海田市	梶原 一貫 (50才)	安芸郡瀬野川村	名簿だけのようです
27・5	?		行武 静子	安芸郡府中町	郡婦人部長
29・7	瀬沢 忠雄 (副会長)	安芸郡海田市	頼沢 忠雄 (監事)	安芸郡海田市	郡会長
31・6・1	頼沢 忠雄 (副会長)	安芸郡海田町	行武 静子 (理事)	安芸郡府中町	婦人部より理事に就任
33・5・26	頼沢 忠雄	安芸郡海田市	行武 静子 (理事)	安芸郡府中町	婦人部より理事に就任
			丸谷 義一	安芸郡江田島町	
35・6	頼沢 忠雄	安芸郡海田市	曾根 七郎	安芸郡倉橋町	
			行武 静子 (理事)	安芸郡府中町	婦人部より理事に就任
37・10	頼沢 忠雄 (常務理事)	安芸郡海田市	丸谷 義一	安芸郡江田島町	
			行武 静子 (理事)	安芸郡府中町	婦人部より理事に就任
			丸谷 義一	安芸郡倉橋町	
39・7	頼沢 忠雄	安芸郡海田市	行武 静子 (常務理事)	安芸郡府中町	婦人部より常務理事就任
			丸谷 義一	安芸郡江田島町	
			野村 一省	安芸郡倉橋町	
41・7	頼沢 忠雄	安芸郡海田市	行武 静子 (常務理事)		婦人部より常務理事就任
			丸谷 義一		
			野村 一省		

43・10	頼沢 忠雄	安芸郡海田市	行武 静子（常務理事）	安芸郡府中町	婦人部より常務理事
			丸谷 義一	安芸郡江田島町	
45・7	頼沢 忠雄		野村 一省	安芸郡倉橋町	
			行武 静子（常務理事）		婦人部より常務理事
			丸谷 義一		
47・6	頼沢 忠雄		野村 一省		
			行武 静子（常務理事）		婦人部より常務理事
			丸谷 義一		
49・6	頼沢 忠雄		野村 一省		
			行武 静子（常務理事）		婦人部より常務理事
			中石 自助	安芸郡音戸町	49・10 受付
			松下 好市	安芸郡下蒲刈町	
51・7	頼沢 忠雄	安芸郡海田町	行武 静子（常務理事）	安芸郡府中町	53・2・8 死亡
			中石 自助		
53・6	頼沢 忠雄		中石 自助		53・9・13 死亡
			北中 輝子	安芸郡坂町	郡婦人部長
55・5	中石 自助	安芸郡音戸町	大吞憲太郎	安芸郡府中町	中石氏郡会長
			和津田タマヨ	安芸郡江田島町	郡婦人部長
			平田 明子	安芸郡坂町	56・3・17 和津田氏と交代
57・6・11	松下 好市	安芸郡下蒲刈町	大吞憲太郎		松下氏郡会長
			平田 明子		郡婦人部長
59・6・8	小間孝一郎	安芸郡倉橋町	大吞憲太郎		小間氏郡会長
			平田 明子		

61・6・10 小間孝一郎

大吞憲太郎

63・6・6 小間孝一郎

大吞憲太郎

平田 明子

平成
2・6・7 小間孝一郎

大吞憲太郎

玉島ミエコ

4・6・27 小間孝一郎

玉島ミエコ

体 験 記

安芸郡遺族連合会婦人部長 玉 島 ミエコ

私、婦人部長になりました、まだまだ未熟なので、今頃に漸く分り始めた有様です。私、町の婦人部長に就きますまでは、恩給とは当然国に於いて行っているものとばかり思っておりました。あぐらをかいて頂いておりました。

郡の婦人部長になりました、全国大会又は陳情に参加させて頂いて、こんなにもしなくてはならないのか？ 国会議員さん方に個々にわたり議員会館の議員室に頼んで廻るのも私達の仕事なのか？ 選挙の時点と反対側に居る私達、恩給の増額は、やむ得ないのでしょうか。前例のおおりに行っているものと思っております。これも婦人部長の仕事の一端にすぎない事なのでしょう。

私、郡の婦人副部長になりました、県の会合に会長さんと一緒に出席

安芸郡江田島町 郡婦人部長

郡婦人部長

郡婦人部長

評議員1名減員

いたしまして、安芸郡青壮年部会員一名なのに驚き会長さんに聞きまして「入会する方がいなくて困って、心をいためております」と淋みしそ

うに話して下さいました。

そうだ青壮年部会員には何もメリットがない。あつ、あつた。彼等が幼少の頃、父と面会に各町から、町長又は民生課の方々が東京へ靖国神社に父と会わせて頂いています。その時彼等は目を輝やかせて連れて行って頂いております。その彼等が青壮年部の会員になって頂きたい。これは個人の思いです。メリットはもう彼等は先に頂いています。

郡の会長さん、副会長さんの常に青壮年部が頭から離れなかったのです。何時もなんか、なんとか、が――

郡の会長さん、副会長さん、各町会長、婦人部長の会同の際一人なので増そうと会議の結果、安芸郡の青壮部は出来上りました次第です。漸く青壮年部会が発足したのです。今年は部長もきまり安芸郡青壮年部会の発展を望んでおります。

婦人部長、青壮年部の合同研修にも、今までは小さくなって坐ってお

りましたが、これで各市郡と頭が揃ったので喜んでおります。青壮年部の方々幼少の頃のメリットを思いだして活躍をお願いいたします。

ボルネオ地区慰霊参拝

安芸郡遺族連合会青壮年部長 宮崎 伍

昭和十九年二月十九日、父、呉港より、ボルネオに。母、見送る。

昭和二十年七月三日、父、戦死通報あり。

十五才で父を亡くし、母、妹、弟四人の悲しいつらい生活が始まりました。それ以来、いつか父の戦地ボルネオに合いに行く事が一生の念願でした。母も苦勞して、三人の子供を立派に育て、昭和五十九年十月十九日に旅立ってしまいました。

幸いにも、前松下広島遺族会長様のお骨折りをいただき、ボルネオ参拝の念願が実現となり、去る昭和六十一年九月二十五日より三十日までの日程で参加することができました。

一般の海外旅行とは違い、感慨深い旅です。いよいよ広島を離れ、目的地ボルネオ島に向かいました。飛行中より見おろしますと、想像していたよりも島も美しく、やさしかった父のことをいろいろ思い出しました。そうしている間に目的地コタキパナルに到着。戦没記念碑に向かいました。記念碑は、飛行途中に見えた、海岸端の、とても景色がよい所がありました。故人の好物をお供えし、参拝者全員で君が代斉唱、靖国神社の唄を合唱し、冥福を祈りました。

お父さんに会いに来ましたよ。どんなにか家族のことが心配だったろ

うと涙があふれて止まりませんでした。亡き母のことも報告し、写真も見せてやり安心しました。

平和な今の日本があるのは、戦争の尊い皆様の犠牲のおかげだと心より冥福を祈ります。本当に念願がかない、一生忘れることのできない旅でした。ありがとうございました。